

## 29【P2】Ⅱ-301

名城大学薬学部における学生実習評価法の構築:CS 分析により改善項目を探る  
○武田 直仁<sup>1</sup>, 竹内 烈<sup>1</sup>, 橋爪 清松<sup>1</sup>, 伊藤 義雄<sup>1</sup>(<sup>1</sup>名城大薬)

【目的】本学部の学生実習は現在、化学系・生物系・分析系・物理系の四系列の基礎及び応用実習に統合され、8 実習 (8 単位) となっている。CS (Customer Satisfaction, 顧客満足度) 分析の考え方を学部学生実習 (2, 3 年次) の学生によるアンケート調査票の一解析手段として導入し、各実習科目が提示する学習到達目標に対して学生満足度を高める質問項目を探索することにより実習改善をめざした。

【方法】実習終了日に医療薬学科及び薬学科の学生を対象とした 21 の質問 (5 段階評定) からなるアンケート調査を実施した。集計結果を到達目標に対する達成満足度を目的変数に、その他の設問の満足度を説明変数とした CS 分析をした。

【結果及び考察】各質問において肯定的評価を表す評価 5, 4 の合計比率を満足度 (%) とし、到達満足度を表した質問の評価分布との連関相関を算出し、説明変数となる各質問の独立係数 (重要度) を導いた。満足度と重要度の XY 座標の midpoint からの距離と角度から改善度を数値化した。分析した結果、各実習科目に比較的共通した改善項目として挙げられた質問内容は、「実習を受けてもっと勉強したい気持ちになったか」や「発展的・応用的な事項が学べたか」であった。学習者の自ら学ぼうとする意欲の啓発や、学習の「動機付け」を高める教育支援の重要性が示唆された。